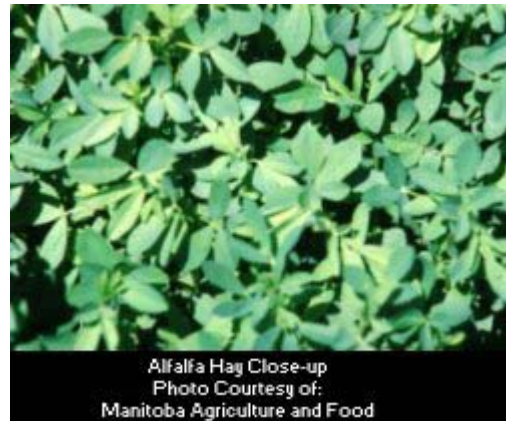




2003年3月

TAME HAY (Alfalfa & Timothy)(栽培用干し草)



アルファルファヘイの拡大写真 フォト提供：マニトバ農業食糧庁

[Information & Contacts](#) / [Why Manitoba](#) / [About the Industry](#) /
[Hay Uses](#) / [Exports](#) / [Quality & International Awards](#)

中央に広がる気候状態と湖水地域であるマニトバはカナダにおいて生産性の高い地域となっている。平野部特有の長く暖かい夏と最適な水分が栽培に理想的な環境をつくっている。その結果、カナダの年間収穫量の約12%がマニトバ産である。

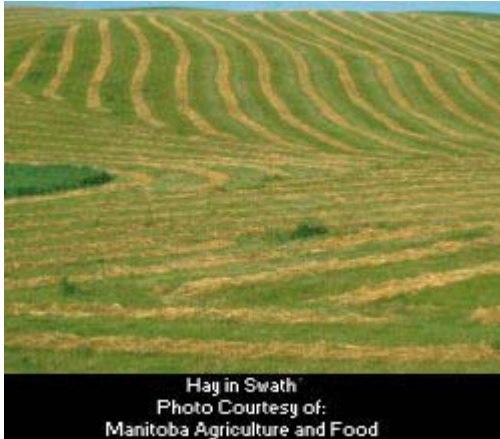
ハイクオリティな干し草生産の長い歴史があり、マニトバ農業界にとって重要な役割を果たしている。家畜業者は州が成立し、入植して以来マニトバ産の干し草を利用してきた。最初の記録すべき生産量は1908年の11万9千エーカーから収穫された21万5千トンで、州内の家畜数の増加に伴い、干し草の生産量も着実に伸びてきた。今日、年間の干し草用耕作地は約190万エーカーで、300万トン以上の収穫量がある。州の10年平均収穫量は、1エーカーあたり1.69トンである。

ほとんどの収穫された干し草が国内の肉牛や乳牛生産に利用され、少量は羊、ヤギ、エルクやバイソンなどの反すう動物の飼料として利用される。アルファルファやティモシーヘイは地域の契約工場に販売され、残りは輸出用となる。アルファルファをペレットやあら挽きに加工する会社が2社あり、輸出用に、アルファルファもしくはティモシーを圧縮している3社がある。

現在アメリカの酪農産業向けに高品質なアルファルファとアルファルファ混合ペールを輸出している。少量の圧縮された干し草がイギリスと日本の市場に輸出されている。マニトバ産の干し草が高品質なことが広まって、新

たな市場が開けてきている。アルファルファペレットとそのあら挽きがアメリカ、ドイツ、台湾などに輸出されている。

生産者と研究者、そしてマニトバ農業食糧庁の職員の努力によって、品質の高い干し草生産が着実に増加してきた。その証拠に、1999年にウィスコン州マディソンで開かれたワールドデイリーエキスポのアルファルファシーード競技会でマニトバの生産者が金賞を受賞したことで努力の成果が現れた。このイベントは世界の生産者が注目している。さらに2000年10月に開かれたワールドデイリーエキスポでは、酪農用干し草競技会の初参加者部門でグランドチャンピオンに選ばれた。他の7つのマニトバからの参加者が全てトップ20位に入賞したことで、さらに高品質の干し草生産能力があることの証となった。高品質な干し草生産と国内外の顧客のニーズに応える姿勢の評判は広まる一方である。栽培用干し草に関する詳しいお問い合わせは下記をご覧ください。



左：干し草の刈り入れ跡 下：スクエアバールの山

フォト提供：マニトバ農業食糧庁



情報とお問合せ先：

- 干し草産業に関する情報とお問合せ先：
[Provincial Forage Specialist, Manitoba Agriculture and Food.](#)
- 貿易全体に関する情報とお問合せ先：[Global Trade Assistance Services.](#)

For further information on Tame Hay, click the following links:

[Alfalfa Hay](#)

[Timothy Hay](#)

Industry Links:

- [Manitoba Forage Council Inc.](#)
- [Manitoba Hay Listing Service](#)
- [World Dairy Expo \(Wisconsin\)](#)